

ニッチ企業の魅力は チャレンジ精神とこだわり

しぶさわ けん
渋澤 健
コモンズ投信会長



ニッチ企業の魅力について、コモンズ投信の渋澤健会長に聞いた。

—— 自社で組成した投資信託には、ニッチ企業を組み入れているのか。

■当社が運用する投資信託は、今後30年という長期の視点から、その時点でも繁栄していると考えられる企業に対して投資している。そのため、組み入れ銘柄には大企業も少なくないが、もちろんニッチ企業が含まれる。いずれにしても、長期的な成長を遂げる企業は、たとえ現時点では時価総額がそれほど大きくなくても、20~30年後にはある程度の存在になっていると期待している。

例えば、手術用の縫合針で世界的にも大きなシェアを持つマニー (7730) は宇都宮市に本社を置き、時価総額は400億円程度と上場企業としては小規模だ。しかし、縫合針を1つひとつ手作りするなど、製品に対する心がけは高い。クリントン元米大統領の手術にも使われたことがあるという。128カ国で使われるなど、存在感は大きい。

また、血球計数検査装置をグローバル展開するシスメックス (6869) や、事業規模はすでに大きいニッチ市場で展開することで大きく成長してきたHOYA (7741)なども投資対象だ。

—— こういった銘柄の共通点は。

■いずれも、市場や時代の変化に合わせて進化する力を持っていると感じる。『三略』という中国の兵法書に「柔よく剛を制す」とあるが、顧客のニーズに柔軟に答えるとともに、従来は手がけていなかった事業にも果敢に挑戦する。つまり、「非常識を常識にできる」、または「新しい常識にチャレンジする」力を持っているといえる。海外進出にも積極的だ。

しかし、その一方で、こだわりのある技術や事業に対しては、一本筋の通った強い信念を持っている。また、新事業に挑戦したり、1つのことにこだわるができるということは、余計なしがらみがないということかもしれない。

—— 投資先を探すうえではどうとらえているか。

■ニッチ、つまり本来の「狭い」という意味でいうと、ニッチ企業に投資することは、究極の「ストック・ピック」(銘柄選定)。すでにある程度成熟してしまった企業の将来的な姿も予想しやすいが、ニッチ企業のように、印象的な特徴を持つ企業の方が長期

的に成長していくイメージがわかりやすい。その意味で、当社の投信にも投資対象として組み入れておきたい銘柄だ。

そういった視点でいえば、家電量販店のなかではケースホールディングス (8282) が興味深い。競合他社が都心部などの激戦区を中心に出店攻勢をかけるなか、地方に販売網を広げるなど一味違う走り方をしている。当社の投信にも組み入れているのは、そういった独自性を持っているためだ。

—— 個人投資家はニッチ企業にどう対応していくべきか。

■ニッチ市場で活躍し続ける企業かどうかを判断するには、やはり経営トップをよく見ておきたい。オーナー経営者が多いのもニッチ企業の特徴の1つだが、トップがリーダーシップを発揮できているかどうか。一方で、企業そのもののガバナンス(企業統治)がきちんと機能しているかも確認したい。そのうえで、魅力的な企業に投資すれば、投資先を多様化するという分散投資の効果も得ることができるようではないか。

(聞き手=池田正史・編集部)